

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和7年12月19日（金）
文責：情野 夏美

塩井小学校 公開校内研修会に参加してきました！

昨日、校長先生、祥子先生、彩花先生とともに、米沢市立塩井小学校の公開校内研修会に参加してきました。山梨大学 教育学部 准教授 三井一希先生の講演を聞いてきました。資料も回覧しますが、大事ななと思ったことやキーワードをまとめましたので、資料と合わせてご覧ください。なお、第2回も開催されるようで、2月27日（金）東京学芸大学 教職大学院教授・学長特別補佐 堀田龍也先生の講演だそうです。

講演内容

学びを愉しむ子供を育成する授業とは
～主体的・対話的で深い学びにつなげるICTの活用～

○次期学習指導要領に向けた基盤となる考え方

- ①深い学びの実装
- ②多様性の包摂＝学びやすい授業になっているか、デジタルの基盤
- ③実現可能性の確保

○子どもたちがICT（生成AIも含めて）を自在に活用できるようにしたい。

○「ICTを効果的に使うにはどうしたらよいか」「紙のメリットもある」という声
→子どもたちのスキルが落ちているからそう思うのである。
授業も旧来型が多くなってしまう。

○子どもたちが学びやすい学習環境を作っていくことが大切。

○ICTを使うことを目的化する。手段に移行する。
そのために、実態に応じた活用経験をたくさんさせる。

○タブレットを机の上に出しているとき…

使う時と使わないときの切り替えをどうさせるか…

画面を教師側に向ける、何度も注意するではなく、自分で切り替えできる子にさせたい。指示で動ける子から自分で決めて動く子へ。

○学びには、ガードレール（ルール）が必要であるが、その幅を子どもたちに調整させたい。（自分で決めさせる）

○子ども主体＝サポート型が理想（教師の支援・フィードバックが多い／教師の制御が少ない）個別最適へとつながっていく。

○自己決定感

自分で決めたことには同意しやすい、気持ちが強いと自信がつく。

幸福度ランキング 1位健康 2位人間関係 3位自己決定

自己決定の場をたくさん設ける。（課題・過程・形態・ツール・場所・ペース）

○同じ問題を解くにしても、個々の思いは変わってくるので、めあては、子どもによって違っていい。

めあてには目的意識を持たせる。

【塩井小学校の授業を受けて】

○ローマ字の習得（キーボー島）全校をあげて取り組んでいる。何段になったら、顔写真付きの名前が掲示される。

3年生で習うものだが、1、2年生から慣れ親しませる。

○ICT を使うことで、教師が示したものと同じものを手元で見ることができるよさがある。

○いつもの学びを確立しておくことで、子どもの学びの時間を多く取ることができる。

○3年生「3年とうげ」単元内自由進度学習（4時間）では、めあてを子どもたちに決めさせていた。めあてが具体的ではない子には、すぐにつつまむ。（ICT を活用しているからこそ、リアルタイムで指導できる。）

ふり返りも、ふり返らせっぱなしにさせない。「こんなこと書くといいよ。」などその場で、その時に言うのが効果的。

○シンキングツールを使いたいときに自由に選んで使いこなせる子へ

○クラウド上や文字だけでは伝わらないことは、対話して解決する。

○デジタル上で試行錯誤する→スクリーンショット→共有して比較する。

○深い学び＝既習をつなげること

過去に戻ることができるのが大切→デジタルだとできる。

○教室の中で、どこで誰と学ぶか

→話す目的がないと、仲良しの子に行く…

いろんな人の考えを聞くことが大事だと教えていく。

いろんな人の考えを聞くことを経験させる。

○個別最適

→個別的な学びにしないこと

最適とは、友達とどう関わるか、自分でどう動くか。

端末で子どもの様子を見ることができるが、教師は一人ひとりを丁寧にみとることが大切。

○「つまり」→収集した情報を抽象化・概念化

「そもそも」→収集した情報を前提としている

「つまり」「そもそも」を意識しながら学びを進める。

○ふり返りのわかったことを書くときは、知らない人に説明するつもりで書く。

まずは、量→そこから質に転じていく。

書くことに苦がない子になってほしい。

ふり返りはめあてに対するもの、まとめは学習課題に対する考え。